

議会報告会の質疑応答概要（厚生福祉委員会）

NO	質疑応答の要旨	
1	Q	春日部市に入所施設がないことに関して、どのように考えていますか。
	A	大変貴重なご意見、ありがとうございます。市内に入所施設がないということ、真摯に受け止め、また、市へ申し上げていきます。(金子委員)
2	Q	議会報告会そのものについてお聞きしたいのですが、議決機関としての議会があり、執行機関としての市があるわけですので、私ども市民からしてみれば、議会と市の双方からの報告というかたちで、お聞かせいただくのが、一番分かりやすいのかと思います。議会で、どのような目的で議決し、それに対して市側がどのように執行したのか、一連の流れで説明すると、分かりやすいかと思いますが、そういったお考えがあるのかどうか。もしあるとすれば、働きかけを市に対して行っているのかどうか、その点についてお聞かせいただきたいと思います。
	A	大変貴重な意見をありがとうございます。ただ議会報告会であり、市政報告会ではございませんので、なかなか難しいとは思いますが、今後に生かさせていただき、検討させていただきたいと思います。(岩谷委員長)
3	Q	国民健康保険、介護保険の収納率についてどのような状況になっていますか。
	A	国民健康保険ですが、まず一般被保険者の国民健康保険保険料の収税率と退職者の国民健康保険保険料の収税率の両方を合算したものが、88.2%でございます。また、介護保険は、ご存知のとおり特別徴収の枠がありますので、特別徴収分は100%、普通徴収分は86.6%で、合計98.2%となっています。(岩谷委員長)
4	Q	病院の事業会計のことでお聞きしたいんですが、市長はよく、ごあいさつの中で、病院経営は黒字だとよく言ってくさるんですが、収益的収入と収益的支出については、黒字としての数字として回答されているのでしょうか。
	A	病院事業会計につきましては、24年度に限っては少し支出が多かったということですが、その前の年度は黒字となっております。今回は、患者さんが多くなったということがあり、その分増えたということがあり、24年度は少し赤字になっています。(松本副委員長)
5	Q	個別予防接種委託事業についてお尋ねします。子宮頸がんの予防ワクチン接種のことで、市内のワクチンを受けた接種率、また、全国的にワクチンが原因で障害が起きたのではないかとということも報道されているので、そういう議論は委員会等で議論されたことがあるのか伺います。
	A	ご質問、ありがとうございました。今マスコミで話題になっていますように、子宮頸がんの予防ワクチン接種については、意見が分かれているところでございます。副作用が出てきているということで、一時中止すべきでないかという意見や、補償をちゃんとすべきでないかという意見もあれば、このまま継続すべきだという意見もあります。今年の6月定例会では、子宮頸がんワクチンについての副作用被害者の救済を求める意見書も出ておりますが、少数否決となっております。予防接種の継続をしますが、積極的なお勧めはしないというのが、厚生労働省の見解です。子宮頸がん予防ワクチンは、平成23年度から平成24年度まで、埼玉県子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進基金事業費補助金交付要綱により、費用助成を実施してきた任意の予防接種であり、接種対象者は接種を希望する特定の人となりますので、接種率として算出することには、馴染まない接種となります。また、子宮頸がん予防ワクチンは3回の接種が必要なワクチンで、年度を跨いで接種をする場合などもあり、年度で接種率を算出することが、難しい予防接種でもあります。従いまして、平成24年度の接種実績回数での回答に代えさせていただきますと、補助金交付要綱に基づく対象者としては、中学1年生から高校1年生までの5271人で、接種実績回数は延べで3056回となります。(井上委員)

NO	質疑応答の要旨	
6	Q	<p>請願第14号春日部市に第3次救命救急の設置を求めるについての請願ですが、請願の内容はどのようなものだったのか。また、新病院は2次救命なのか、3次救命なのか教えていただきたいと思ひます。</p>
6	A	<p>請願の内容は、市に第3次救命救急センターを設置してほしいという請願でございました。これについては、委員会でも審議が行われ、本会議でも討論が行われたところです。3次救命救急センターということですが、もちろん救急というのは、市民の皆さんの切実な課題ということになっていいますが、本来3次救急というのは、県が中心になって設置をするべきものであるという意見や、市で設置するのはなかなか難しいという意見がありまして、少数否決となりました。確かに、市の消防による搬送件数は年間1万件くらいになっています。また救急車が到着してから出発するまで30分以上かかってしまうこともあって、やはり救命救急センターというのは必要ではないかという意見もありました。ただ市立病院の役割というのは、2次救急を中心とするということで、3次までやるとなると、医師の数や施設としても大変なことになるということもありますので、2次救急、2次医療となっています。(松本副委員長)</p>
7	Q	<p>私のみている保育所に通っている子のお母さんですが、お子さんに発達障害がありまして市に相談をしましたが、なかなかうまく答えが返ってこないということで、それならば別の市町村に引っ越そうかという方がおります。別の市町村というのは、越谷市なのですが、教育と保育とがスムーズに連絡が行くようになっていて、例えば虐待の情報や、発達障害のお子さんの情報がスムーズに1つのところに集まるようなシステムがあると、そのお母さんがいろいろ調べてお聞きしたそうです。春日部市に残ってもらえるような教育と保育について、教育と福祉の部分が密接に結びついて全体としてみんなでお子さんを大事に育てていければいいと常々思っておりますので、そういった声を間近に聞いているということを議員の皆さんにちょっとでもお伝えできればと思ひ、手を挙げさせていただきました。</p>
7	A	<p>貴重なご意見ありがとうございます。まだまだ春日部市としては、保育所のほうは待機児も減ってきましたが、そういった障害児のお子さんについては、これから他市の状況も参考にしながら進めていかなければいけない部分だと感じております。これからは執行部のほうにもきちっと働きかけて、そういった連携もとれるような春日部市にしていけたらいいなと思ひます。(渡辺委員)</p>